



とがみ

「やさしく かしこく たくましく」

山形市立滝山小学校

第4号
令和4年6月1日

発行：校長 吉田健志
山形市小立4-13-86

運動会への応援ありがとうございました！

今年度も、競技数を絞った運動会になりましたが、実行委員や6年生をはじめとするリーダーが工夫して、「一人一人が主役！楽しく悔いのない運動会を創り上げよう！」というスローガン通りの運動会を創ることができました。徒競走に引き続き、28日、応援合戦と学年部3種目の熱戦が繰り広げられました。その熱戦の中、1003点对999点で、見事優勝を獲得したのは赤組でした。準優勝の白組も、大変よく頑張りました。



団体種目は、3種目とも白熱した「楽しく悔いのない」勝負となりました。

低学年種目は、「元気におどろろ、たくさんいれよう、チェッコリ玉入れ」。ノリノリのダンスから玉入れに気持ちを切り替え、真剣に玉を投げていました。練習の時から2年生がお兄さんお姉さんらしく、自分たちの動きや態度で1年生に手本を示していて、とても素敵でした。



中学年種目は、「きぼうとスマイル 8の字

リレー」。一生懸命走り回って回りました。回るときの3人の気持ちと動きがしっかり合っていました。練習では、はじめは自分から行動できる人が4年生の1部だけでしたが、練習を繰り返していく内に、自分で動く人、仲間に声をかけて自分たちのチームを高めようとする人が増えてきました。そして本番、チーム一丸となって勝利をつかもうという気持ちがあふれた素晴らしい勝負でした。



高学年種目は、「勝利を勝ち取れ！白熱V」。高学年らしく難しい種目で、チーム全員が気持ちを一つにできないと勝てない競技です。本番では、練習で高めた集団の力を見事に発揮しました。競技だけでなく、移動や集合などの集団としての動きを高めてきたからこそだと思えます。そういう集団としてまとまって一つのものに向かう力を、明日からの「自分たちで創る滝山小」に活かしてほしいです。

子供たち一人一人にとって、きっと「最高の運動会」、「楽しく悔いのない運動会」になったのではないかと思います。運動会の取り組みで成長した自分を確認し、新たな目標を持って



新しい事に挑戦してほしいと思っています。

これまで、温かく見守り励ましてくださったお家のみなさま、地域のみなさま、ありがとうございました。

運動会ふり返り 5 / 3 1

放課後、係毎のふり返りでした、6年生教室の廊下には、6年生のあるクラスのふり返りが貼ってありました。自分(達)の成長と課題をきちんと自覚することが、次への出発点です。

運動会を通して得た成果	今後に生かしたい課題
<ul style="list-style-type: none"> ・自分から行動できた ・0から創り上げる力 ・人を動かすことが少しできた ・1年生に教えられた ・前に出て話す力がついた ・自分から反応できた ・自分の仕事じゃなくてもできた ・他人事にせず積極的に動く力 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの準備中に生活が乱れることがあった ・他人事になっていた →仕事が終わっても周りを見て探す ・すばやく行動したい ・はずかしがらずに意見を言えるようにしたい ・たくさん練習して自信をつけたい ・高学年部種目の時にかけ声をかけたい →ピンチの時こそ、声をかけ合う



6月行事予定

1 (水) 登校指導 子ども面談(～7/8)	1 6 (木) 個人面談③ 歯科検診(上学年)
2 (木) 耳鼻科検診(上学年) プール清掃	1 7 (金) 個人面談④
3 (金) 代表委員会	2 0 (月) 個人面談予備日
5 (日) 第8回ジュニア強化陸上記録会	2 1 (火) 全校集会(音楽) ロング昼休み 体力テスト(～23日)
6 (月) 避難訓練(地震・不審者)	2 2 (水) 眼科検診(上学年) 3年遠足予備日
7 (火) 全校集会(陸上壮行式) 市小学校陸上運動記録会	2 3 (木) おはなしの会(下学年) 自転車教室(3年)
8 (水) 内科検診(下学年) 陸上予備日	2 4 (金) クラブ活動①
9 (木) 交通教室(5年)	2 7 (月) 委員会活動
1 0 (金) 3年遠足(千歳山)	2 9 (水) 緊急時集団下校指導(5校時)
1 3 (月) 個人面談①	3 0 (木) 埋蔵文化財センター出前授業 (6年)
1 4 (火) 個人面談②	
1 5 (水) 眼科検診(下学年) 4校時授業	



毎週金曜日は「スキンシップの日」！やってみませんか？

◆光文社新書 山口創著『子どもの「脳」は肌にある』より 心に留まった言葉◆
※山口創氏：桜美林大学心理・教育学系教授

○子どもの心は肌にある。

- ・皮膚は、露出した脳である。触覚は、視覚や聴覚と異なり、直接脳を刺激している。
- ・母親とのスキンシップは、自分が受け入れられ大切にされているのだ、という自信を強め、その温かさから、「自分は信頼できるものだ」、ということ肌で学んでいく。
- ・父親とのスキンシップは、世の中に意識を向け、人と協調して自分を出したり引っ込めたりするような社会性を伸ばす。

○スキンシップは思いやりを育てる。

※ 現代の子ども達はゲームなどの疑似体験が多く、直接体験が不足していると思われます。子どもの思いやり、優しい心は、親とのスキンシップが基礎になるということを知りました。なでなで、ハグ、握手、マッサージ、痛いところをさするなど、子どもにとって心地よいスキンシップをどんどんやってみましょう。